

当研究室では、神経障害性疼痛など痛みの異常に関する基礎研究およびレチノイン酸と骨格形成に関する研究に取り組んでいます。興味のある方はぜひご連絡ください。見学も随時受け付けています。



痛みの異常に関する基礎研究

・グリア細胞の活性化とニューロンの興奮性に関する研究

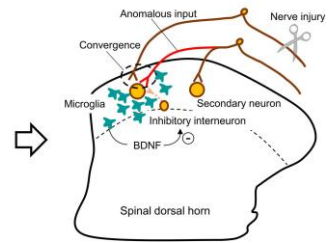
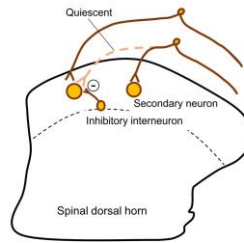
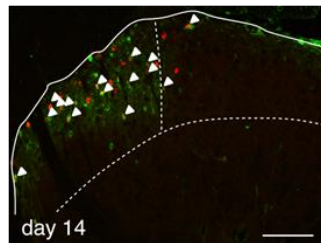
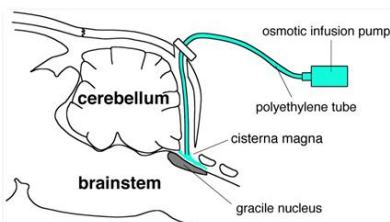
中枢神経系のグリア細胞（ミクログリアやアストロサイト）の活性化とニューロンの興奮性の関連を追究する。

・末梢神経損傷後の中枢投射部位における神経回路の再編成

神経損傷によって起こる脊髄や脳での神経回路の変化を探る。

・神経障害性疼痛に対する効果的な治療法の開発

アデノシンレセプターアゴニストやミノサイクリン投与の効果などを解析し、痛覚異常の治療につなげる。



レチノイン酸と骨格形成に関する研究

・骨格形成におけるレチノイン酸シグナルの機能解析

正常な骨格の発生、成長においてレチノイン酸シグナルが担う役割を解明する。

・異所性骨化の新規治療法に関する研究

先天的、後天的に生じる異所性骨化のメカニズム解析と治療法開発への展開を行う。

・運動器疾患のメカニズム解析と治療法に関する研究

骨、軟骨、関節、筋肉等に生じる病理的状態のメカニズムの解明を行う。

